

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスLEIF横浜南		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	2026年 2月 25日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明をしている。	利用者の特性や家族の状況に合わせ、説明のスピードや重点を置く箇所を調整している。また、一度の説明で終わらせず、質問しやすい雰囲気づくりを徹底しています。	説明を受けた直後だけでなく、利用開始してからも「改めて不明な点はないか」を再確認するフォローや、面談を仕組み化し、満足度の継続的な向上を目指します。
2	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っている。	支援プログラムの形骸化を防ぐため、日々の朝礼や毎月のプログラム会議の時間に、「支援がプログラムのどの目的に紐付いているか」を常に意識した共有を行っています。	公表しているプログラムが現在の利用者のニーズや特性に最適化されているか、定期的なアセスメントを行い、プログラム自体のブラッシュアップを図ります。
3	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができている。	単なる報告に留まらず、専門的な視点から見た子どもの姿をポジティブに伝えるよう意識しています。サービス提供記録では活動内容だけでなく、その時の子どもの感情や成長を感じたエピソードを具体的に記載し、視覚的に伝える工夫をしています。	個別のやり取りだけでなく、保護者同士が交流し、子どもの発達について共に学ぶ機会を設けることで、事業所と保護者グループ全体の連帯感を強めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	これまで個別相談(随時対応)を主軸としてきたため、集団を対象としたプログラムや定型的な情報提供の仕組みを構築するためのノウハウが蓄積されていない。	引き続き個別相談を受けつつ、必要に応じて家族等も参加できる情報提供の機会を設け、家族が孤立せず共に子どもを支えるパートナーシップを強化できる体制を目指す。
2		兄弟や姉妹、家族参加型向けのイベントの開催等により、保護者同士の交流機会を設けているが、保護者会等の開催を直接的にしていない。	現在好評な「家族参加型プログラム」の中に、自然な形で保護者同士が情報交換できる「交流タイム」を組み込みます。プログラム内の交流プログラムの充実を図ることで、保護者様お一人おひとりが『この事業所の一員でよかった』とより深く実感していただける、風通しの良いコミュニティづくりに邁進してまいります。
3			